

広見短歌会

山裾に沿って並べる窓明かり中の囀らん浮びくるなり

佐々木登美子

五十歳で逝きし父の忌近し春一番今日吹きすさぶなり

武田 幸子

わが母は貧しさ言はず三人のわれら娘を学ばせましぬ

蛭谷 寿子

剪定後放置枯枝パチパチ燃えて家族の暖をとりたり

芝 幸子

雪ふりてズボン縫いつつ母想翟わせくれしを感謝するなり

兵田トミ子

冬至の日病に効くと戴きぬゆずの香りは湯船に溢る

伊手リツエ

妹は月日流れど夫逝て雪舞う空を眺めいらし

二宮 安恵

厳寒にも堪へて咲きつぐらう梅のスーパへ急ぐ道の清しき

高田 治子

気づかひし米寿も事なく暮れゆくか玄閣の壺に南天活けぬ

山本まつゑ

今わかるあの痛かった愛のムチ

宇都宮 忍

痛いほど分るが金は持ってない

宇都宮 孝

妻の魔法にかかったまままだ解けぬ

金子すすむ

恋という魔法世界が美しい

合田 悦子

人生は魔法が解けたとき終わる

財前 溪子

張り切つて飛んではみたが水たまり

加藤 桂子

張り切らず年相応の道選ぶ

宮岡 沙代

張り切つて日記をつけた三日まで

都 瞳

張りきつて今日は内科よ明日眼科

渡辺 光男

待ち合わせ場所を間違え日が暮れる

武田 浅美

手の届く範囲内でも探し物

吉井 興一

法螺吹いた大風呂敷が畳めない

栗木 一郎

裏山のこだまが僕の友だった

森本 幸美

苦勞した証人間角が取れ

宮川 柳酔

鬼北の足跡を辿る…【等妙寺編 第1回】

国史跡 等妙寺旧境内

「芝地区に所在する等妙寺は、古い歴史をもった格式高いお寺だった」皆さんも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

今のお寺がある裏山は「古寺山」と呼ばれ、昔お寺があった場所として地元で伝えられていました。今から25年前、その跡地を調査したところ、当時建物が建てられていた平場やその周りの石積みが大変良好な状態で残っていることを発見。そのことをきっかけに、さまざまな調査研究が行われ、平成20年3月28日、史跡「等妙寺旧境内」として国の指定を受け、今日に至っています。なお、県内の国史跡は現在14件で、そのうち11番目の指定でした。

さて「国の史跡」とはどのようなものか、法律上では「…遺跡で我が国にとつて歴史上又は学術上価値の高いもの」のうちで「重要なもの」という位置づけになっています。その価値の判断基準は歴史・風土・希少性・保存状態などさまざまですが、現在、県内で「遺跡」に認定されている場所は4千か所余り（実際にはそれ以上）。その中で、と

うかがえるのではないのでしょうか。

数の理屈だけではなく、この等妙寺は、まだ明らかになっていない歴史の謎を多く秘めた遺跡でもあります。史跡指定概要には「遺構の保存状態が良い」「寺院の活動を示す資料も豊富」で、さまざまな側面からの研究が可能（資料的価値が高い）であるため、歴史的な解明（歴史的価値）が期待される」ということに重点が置かれています。

寺院を創始することを「開山」といいますが、奈良山等妙寺は元応2年（1320年）開山で、5年後の2020年には大きな節目となる700年目を迎えます。鬼北の文化の原点とも言える等妙寺の歴史について、少しずつお伝えできればと思います。

きほく川柳会



等妙寺旧境内の本坊跡の石積み